



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年6月11日(日) 9:30~12:00(雨)

参加者 一般:1名

指導員:2名

テーマ 川原の生きもの

梅雨の季節でやむをえませんが、先月に続いて雨にたたられ、参加者は3名だけでした。

川原の生き物がテーマですが、長靴着用でも、草丈の高いところには入れません。「カワラ」と名の付くカワラサイコやカワラマツバは、堤防近くで咲いているのを見ました。

堤防法面は、5月末に草刈りが行われ、草は伸びておらず、ブタナの花だけが立ち上がっていました。ロゼット状の葉から花茎が伸びる速さが分かります。そんな法面にネジバナが並んで咲いていました。よく見ると、両者の巻き方が反対になっていました。

今年は桜をはじめいろいろな花が早く咲いた気がしますが、園内の水路では半夏生(雑節の一つで今年は7月2日から6日まで)はまだ先ですが、ハンゲショウの花が咲いて、近くの葉が半分白くなっていました。

池ではヒメガマの花が咲き、触れると黄色い花粉が飛び散りました。先端の雄花とその下の雌花の間が離れ、緑色の軸が見える点がガマやコガマとの違いです。

一方、園内のヤマモモの実の付き方はよくないようです。他所でもほとんど実をつけていないヤマモモの木を見ました。タワー玄関横の樹は昨年6月の観察会の時には未熟な実がいっぱいついていましたが、今年はぼつん、ぼつんと熟した実がついているだけでした。(花はやはり早かったものと推測されます。)

さて、昆虫はというと、雨のため飛んでいる蝶などは少ないのですが、枝の間を探すと葉の裏に止まったヒロオビトンボエダシャクの姿がありました。近くに幼虫が食べるツルウメモドキが生えているので、毎年この時期にはアカメガシワの花にきているところを見かける蛾です。

堤防道路から眼下に広がる川原の草原の上を、30 翅程のツバメが草丈すれすれに低く飛び交っていました。ツバメの数が多いのは、巣立ちした若鳥が混じっているため、低く飛ぶのは、餌となる小さな虫が雨のため低いところにいるためと考えられます。

こういう雨天だからこそ見ることのできる光景に出会えた観察会でした。

(報告: 齋竹)



ヒメガマの花

上部の黄色の部分♂雄花

下部の緑色筒状部分♀雌花

<その他見られたもの>

鳥: ホオジロ、スズメ、カワラヒワ、メジロ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ウグイス(声)、オオヨシキリ(声)、キジ(声)、コゲラ(声)

虫: モンシロチョウ、キタキチョウ、ツバメシジミ、キタキチョウ、オオスズメバチ

花: オオキンケイギク、ノアザミ、コウゾリナ、ヒメジョオン、シロツメクサ、ヒナギキョウ、ヒナキキョウソウ、イヌコモチナデシコ、オッタチカタバミ、マメグンバイナズナ、ドクダミ、オオカワチシャ、メリケンムグラ、コマツヨイグサ、ナツツバキ、タイサンボク、ナワシロイチゴ、マクワ



咲き始めたカワラサイコ



右巻きと左巻きのネジバナ



ハンゲショウの花と白くなった葉



雨宿りのヒロオビトンボエダシャク